

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

クロス替え

「家のクロスを張り替えないのよね」という、相談とも、独り言とも判断のつかない言葉を良く聞く。

タバコを吸う人のいる家はもちろんだが、そうでなくともクロスを替えて一〇年も過ぎると、なんだか我が家がかすんできた気がする。そのせいで、日々の生活まではつきりしないような…。

だが今日は過ごせた生活が、明日は過ごせないというわけではない。

そんなことを考えて決心しないまま、ついつい一年がたち二年が過ぎる。そしてあるとき、例えば子供の結婚話が進んだり、旧友を招くことになったりしたときに、もっと早くクロスを替えておけばよかったと嘆くことになる。

日々過ぎていくことに、敏感でいることが大事なのだと思う瞬間だ。それは決して人ごとではない。

「我が家もそろそろ替えないとね」と言ってから何年も過ぎた。クロスを替えるなら、カーテンも替えなといといけないし、照明器具も寿命がきているし、家具も統一したい。そんなこと

をぐるぐる考えているうちに、「とにかく今は忙しい」と後回しになった。そして紺屋の白袴の生活が続いていた。

ついに、我が家はクロスを変えた。同時に付随するカーテン選びやその他考えなければいけないことは、時間がないのは、時間がないの

で後回しにして。今出来ることだけでも今しよう、もしかしたら今しかないかもしれないのだからと。

そう思わせたのは、たまたまソファアの展示をみていたときの夫の言葉だ。

「明るい色の皮はやっばり汚れて一〇年持たないかも…」とぶつぶつ言っている私に、夫は「一〇年先は生きているかどうかかわからないだろ」と言った。ずいぶん利根的な発言だと思いい、一瞬ムツときたが、確かにこれからの子供たち世代とは違い、かなり限られた時間のなかで暮らしを築しなきゃいけないのだ。

本当に気に入っているも



のを、汚れやすいからと断念するのは、子育て期のこともかもしれない。ライフスタイルに合わせた家づくりをと、いつもセミナーで話している私だが、どうやら今回は夫に一本取られた感じがする。

クロスを変えることは家具を動かすことになり、家具を置いた時から溜まったほこりが吹きます。「うわあ!」とあわてて掃除機を引っ張り出すことになるのだが、とにかく家のほこりは一掃される。

クロス替えは、壁紙が綺麗になっただけではなく、家の暮らしがリセットされた心地よさがあるものだ。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。